

第三十三回

全国きき酒選手権大会 ★ レポート

決定!

個人の部は長野県・由井志織さん
団体も長野県（由井・吉野ペア）が制覇

第33回 全国きき酒選手権大会

主催／日本酒造組合中央会



優勝した長野県チームの由井さんと(左から2人)と、吉野さん(その右)を祝福する
中央会の久慈副会長(右から2人)と全国農業協同組合連合会の栗原課長(右端)、日本酒マスコット・おちょこくん(左端)

2013年の日本酒きき酒チャンピオンを決定する「第33回 全国きき酒選手権大会」(主催＝日本酒造組合中央会)が10月25日の午後、東京千代田区のホテルニューオータニで開催され、<個人の部>では長野県代表の由井志織さん、また<団体の部>でも由井さんと吉野琴美さんの長野県チームが、みごと初の栄冠を獲得しました。恐るべし、女性パワー！



2013年の統一王座をめざし、34都道府県の代表68人が熱戦

● 大学生チームも特別枠で参戦

「全国きき酒選手権大会」は、地区大会を制した各県のきき酒名人が、プライドと鍛錬のワザを賭けて年間統一王座を競い合う、まさにきき酒版の日本シリーズ。2013年のチャンピオンを決定する今大会には、34都道府県の代表68人（男性47、女性21）がエントリーしたほか、特別枠として大学生チーム9組18名も参戦して、例年どおりの熱戦を繰り広げました。



激戦の舞台となったホテルニューオータニ



▶ 開会式は正午スタート。初めに挨拶した中央会の佐浦需要開発委員長は、「この大会の参加者は、皆さんライバルであると同時に日本酒を愛する仲間同士。この機会に、競技だけでなく日本酒愛好家として交流の輪も広げてもらいたい。今回
佐浦需要開発委員長は団体の部で群馬県の3連覇なるか、他県が一矢報いるか、たいへん楽しみにしています」と述べました。



▶ 一昨年、昨年と2連覇の偉業を達成した群馬県チーム（石関真理・大嶋香織さん）が優勝旗を返還。



▶ 続いて、福島県チームの安田道隆さんと坂本博紀さんが、力強く選手宣誓。「日ごろの鍛錬の成果を発揮して」「正々堂々と戦うことを誓います」



▶ 中央会の濱田理事から、競技方法、注意事項などの説明を受けた後—



▶ まずは、日本酒の歴史や酒造りや基礎知識などを問う筆記試験（10問、20分）から競技開始。選手の中からは「結構ハイレベルでした」というため息も。

日本酒7タイプをマッチング。緊張感みなぎる真剣勝負



静寂に包まれた空気の中で、真剣勝負の火花が散る。

● こばた vs 小倉両氏のトークショーでリラックス

いよいよ本選スタート。きき酒競技の方法は、例年どおり7種類の日本酒（純米吟醸酒、大吟醸酒、純米酒、本醸造酒、生酒、低アル酒、普通酒）のマッチング法で、4組に分かれた選手たちは、各組15分の制限時間で、緊張感みなぎる真剣勝負を展開。

競技終了後には、公認スポーツ栄養士で日本酒スタイリストのこばたてるみさんとサッカー解説者の小倉隆史さんによるトークショーが開かれ、スポーツとお酒をめぐる楽しい話が、闘い終えた選手たちの緊張を解きほぐしていました。



▼ トークショーに先立って、こばたてるみさんを日本酒スタイリストとして正式に認定された。



◀ 大学生チームの皆さん。「初めてのきき酒だったけど楽しかった」「友だちがきき酒師なので、練習してきました。効果？あったと思います」



▲ 最終決着は10人によるプレイオフで



▲ こばた vs 小倉トークショー。「お酒は楽しく。オンとオフを切り替えて」(こばたさん)。「サッカー選手にも日本酒好きは多いですよ。自分で打ったソバを着に飲むとサイコーです」(小倉さん、左端)

お互いの健闘を称えて、懇親パーティ&表彰式

● 100%の力を出し切った満足感

競技の後はお待ちかね懇親パーティの時間。まず、中央会の久慈副会長の発声で「日本酒で乾杯！」した後、成績発表が行われ、各部門の入賞者に久慈副会長から賞状や記念品（日本酒と全農提供のお米券など）が手渡されるたび、会場からは盛んな拍手が。参加者は、100%の力を出し切った満足感に浸りながら、歓談のひと時を楽しんでいました。



「今回はまれに見る激戦でした。皆さんの健闘に乾杯！」(久慈副会長)



▲ 緊張感を高めるファンファーレがとどろく中、「団体の部優勝は…長野県！」という司会の声が響き、喜びを爆発させる由井さんと吉野さん。

▶ 優勝者インタビューに答えた2人。初出場で見事団体・個人両部門を制した由井さんは「自信がありました。勝つつもりで優勝の名刺も作ってきました」と堂々の勝利宣言。「素晴らしい日本酒がもっとも世界に広まっていくように、自分でも何かできることをしたい」と、元気いっぱいのコメントで会場を沸かせました。



▶ 一方、「3度目の挑戦でやっと念願が叶った」という吉野さんは「うれしくて言葉がありません。日本酒が手の込んだ世界に誇れる文化であることを改めて実感しました。2020年東京オリンピックの決定を機にもっと世界の人に知ってほしい」と、日本酒への深い思を語ってくれました。



🏆 上位入賞者の方々

個人 の 部	優勝	由井 志織 (長野県)	団体 の 部	優勝	長野県(由井 志織/吉野 琴美)
	準優勝	石関 真理 (群馬県)		準優勝	大阪府(松尾 弘寿/瀧川 知里)
	第三位	加藤 哲也 (鳥取県)		第三位	高知県(松木 尚志/野村 ひとみ)



石関さん



加藤さん



大阪府チーム(左 松尾さん、右 瀧川さん)



高知県チーム(左 松木さん、右 野村さん)

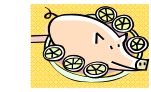
オフサイドの風景



豪華な料理に舌鼓



▶ 審査委員長を務めた(独)酒類総合研究所の家村理事が正解発表と講評。「本戦は全問正解が4人というハイレベルな闘いでした。日ごろの鍛錬の賜物です」



個人の部 10位～4位入賞のみなさん



◀ 回正解発表を聞きながら、自分の回答シートを熱心にチェック。

▶ 「あーっ、A は純米酒だったのかぁ」



こちらは特別枠・大学生チームの入賞のみなさん



乾杯三唱で中締め(挨拶は遊佐需要開発委員)